

# 歩行者空間の整備 他都市の事例

歩道研究プロジェクト・チーム

表一 1 歩行者空間整備他都市の事例

場所	名称	事業手法	事業者	管理者
札幌	●北四条通り	街路事業	市	市
旭川	●神楽岡ニュータウン			市
〃	●七条通り, 新見川大通	街路事業		市
〃	●平和通り買物公園			
〃	●銀座しあわせ広場			
函館	グリーンプラザ			
〃	川原緑道			
〃	緑園道			
酒田	酒田	区画整理		
仙台	七郷堀	街路事業		市
〃	仙台駅川内線(駅前広場)	〃		市
茨新治郡	筑波破究学園都市	新住法	住宅公団	
北茨城	中郷ニュータウン			
久留米小平	●久留米		住宅公団	
狭山	狭山台		〃	
久喜	平沼(久喜)		〃	
千葉	東寺山		〃	
取手	戸頭		〃	
千葉	沼南台		〃	
	新検見川		〃	
	鷲尾		〃	
	米本		〃	
埼玉草加	草加松原		〃	
	金杉台		〃	
柏	柏駅デッキ(駅前広場)	再開発事業	市	市
	百草		住宅公団	
	●多摩ニュータウン	新住法	〃 都	
神奈川	相模緑道			
新宿	四季の道		区	区
世田谷	蛇崩川緑道			
江戸川	古川遊歩道			
名古屋	朝倉		住宅公団	
	高山田		〃	
	●高蔵寺ニュータウン	区画整理	〃	
京都	●白川疎水通り	街路事業	市	市
	●くずはモール			
京都・奈良	●平城ニュータウン		住宅公団	
吹田・豊中	●千里ニュータウン	新住法	府	
堺・和泉	●泉北ニュータウン	〃	〃	
大阪	●真美ヶ丘			
〃	●道頓堀ガーデンロード			
〃	●楠根川跡緑陰歩道			
〃	●大野川自転車歩行者専用道路	街路事業		
〃	●東横掘緑陰歩道			
〃	●史跡連絡遊歩道			
神戸	●西神ニュータウン		市	
〃	●須磨ニュータウン(高倉台)		〃	
〃	みどり彫刻のみち(神戸駅前西線)		〃	
〃	神戸駅裏線		〃	
岡山	西川緑地			
呉	れんがどおり(中通買物公園)	街路事業		
熊本	サンロード新市街(1929)			
佐世保	佐世保買物公園			

歩行者専用の道路空間としては、古くから門前町等で事実上自動車の通れない道は存在していたが、昭和三十年頃から

普及したアーケード街、地下街通路が最初であろう。これは主として交通規制によるものであるが、その後昭和四十年代

に入り歩行者天国という形でさらに発展してきた。一方、四十年代に日本住宅公団等により大規模なニュータウン開発が

行われるようになり、欧米で発達していたロードバーン・システム等の人車分離の設計が道路計画に取り入れられるように

なった。道路関係法制面でも、昭和四十五年道路構造令改正、四十六年道路法改正により歩行者専用道路等の規定が加えられ、四十六年交通安全改築事業、四十九年街路事業による歩行者専用道路等の事業手法の制度充実に伴い、公共事業による歩行者空間整備が行われるようになってきた。

本市においてもこの流れの中で、昭和四十五年伊勢佐木町の歩行者天国、四十六～七年の元石川・剣山団地、野庭団地の歩行者専用道路、五十三年伊勢佐木モール、霧ヶ丘団地の歩行者専用道路等が整備されてきた。

これらの歩行者空間整備は、次の三つのパターンに分類される。  
 (ア)都心部の商店街等で商業的ポテンシャル向上を主眼に行われる在来道路のモータリ化等。道路交通法の規制によるものが多く、建設・維持管理を地元参加・地元負担により行っている。

(イ)既成市街地で水路のフタかけ等他の公共空間の転用により生み出した歩行者空間。地元要望・利用実態に合わせた応急的な整備。

(ウ)大規模なニュータウン造成等において人車分離の道路網システムを構成させるため、開発者が計画的に整備した歩行者専用道路網。

このようにして、本市においても、既

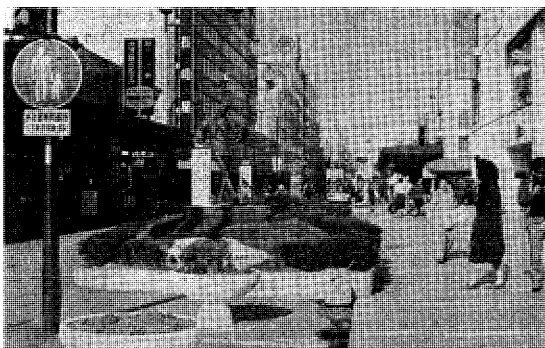
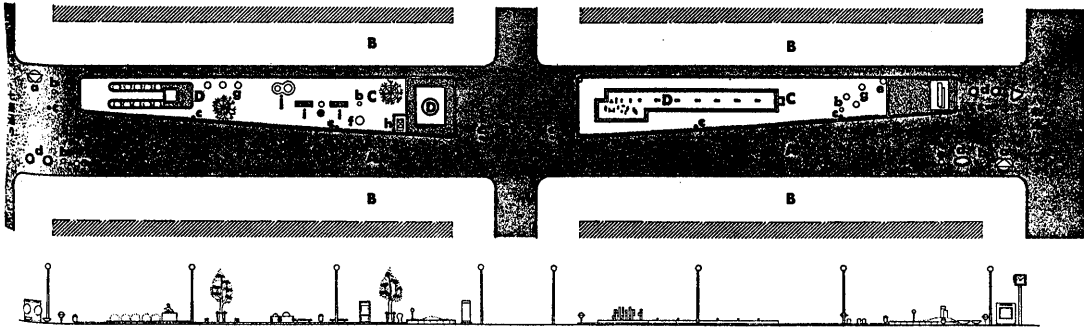
に三一路線、延長約二・六kmの歩行者専用道路(道路法の歩行者専用道路の指定を受けたものだけの延長であり、未指定のもの、道交法によるものを加えると延長約二五kmとなる)が整備されてきており、さらに港北ニュータウン等今後整備される予定のものを加えると、総延長が一〇〇km近くになることが予測される。

しかし、現在、これら歩行者専用道路等建設・管理については、道路法、道路交通法、建築基準法等にかかるさまざまな問題点がある。他京市の歩行者空間整備の事例として表一のようにリストアップされるが、これらのうち、本市と似た状態にある主要な大都市の事例(表一の「●」)について、昭和五十四年十一月十二日に関係職員のプロジェクトチームにより調査を行った。調査は各都市の計画・設計者サイドと管理者サイドについて各々ヒアリングを行い、あわせて現地を調査するという方法により行われた。この調査結果の一部を表一に示す。

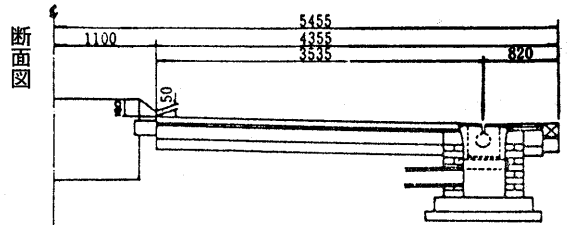
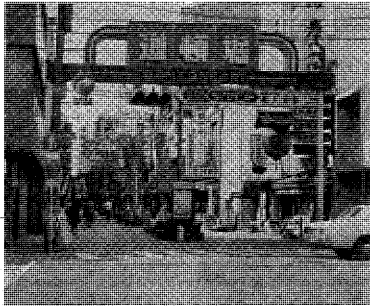
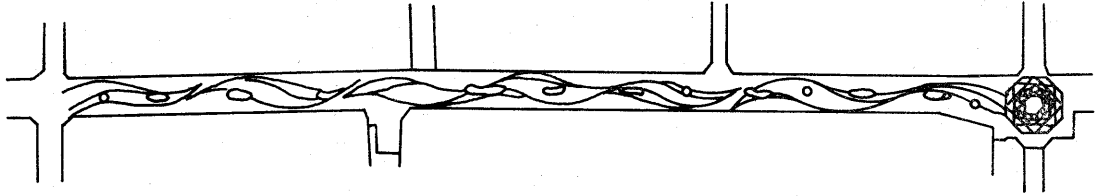
(チーム構成員 金近忠彦〓道路局街路課 川上大三郎〓緑政局施設課 坪田寿典〓道路局維持課 中村俊輔〓都市整備局港北ニュータウンセンター開発対策室 三浦良〓道路局道路交通対策課 内藤悖之〓企画調整局都市デザイン担当 宇野勝視〓道路局維持課 長瀬護〓日本住宅公団港北開発局)

## 都心部の歩行者空間

●旭川市買物公園(旭川市)——47年度 旭川市単独事業(地元が半分を費用負担) 幅員20m 延長1km



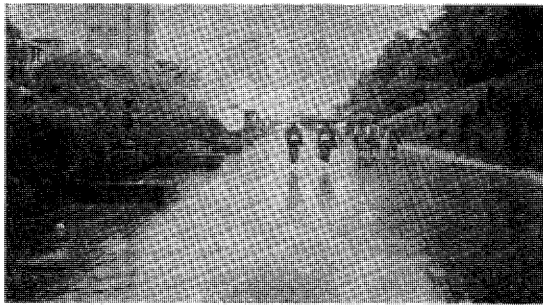
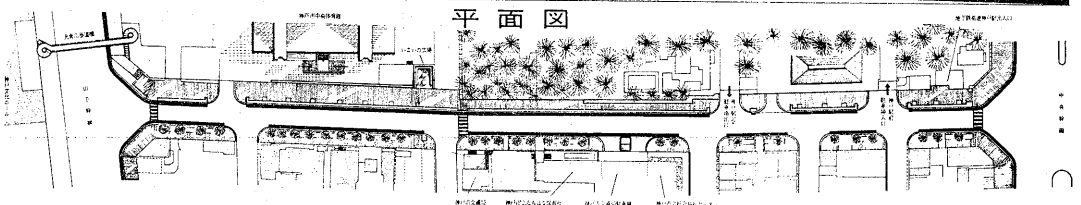
●道頓堀ガーデンロード（大阪市）——



48年度 大阪市単独事業 事業費4億8千万円（地元負担金含む） 延長450m・幅員11m

●みどりと彫刻のみち（神戸市）——

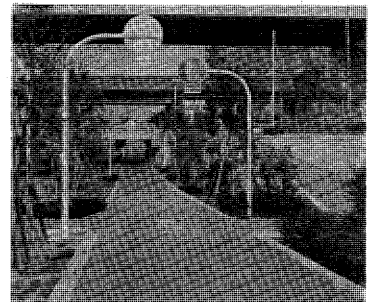
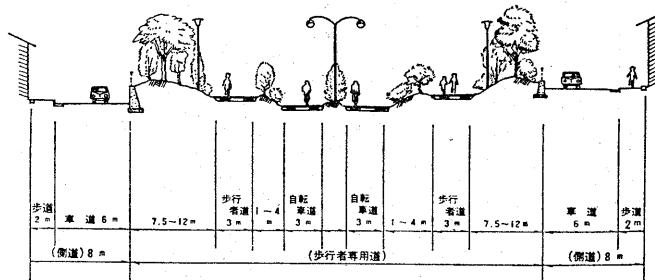
断面図



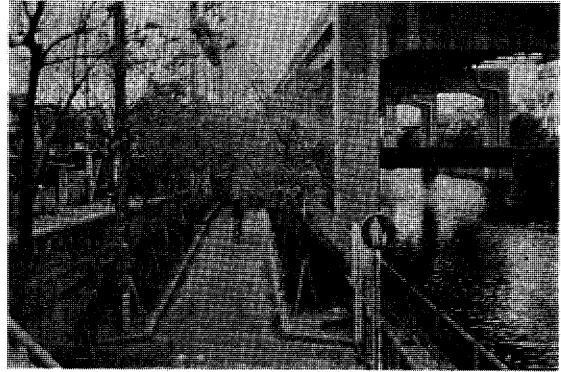
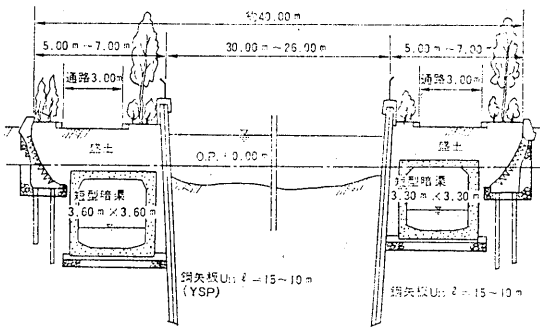
46~48年度 神戸市事業 事業費7,500万円  
幅員20~25m 延長396m

公共空間の多目的利用による歩行者空間

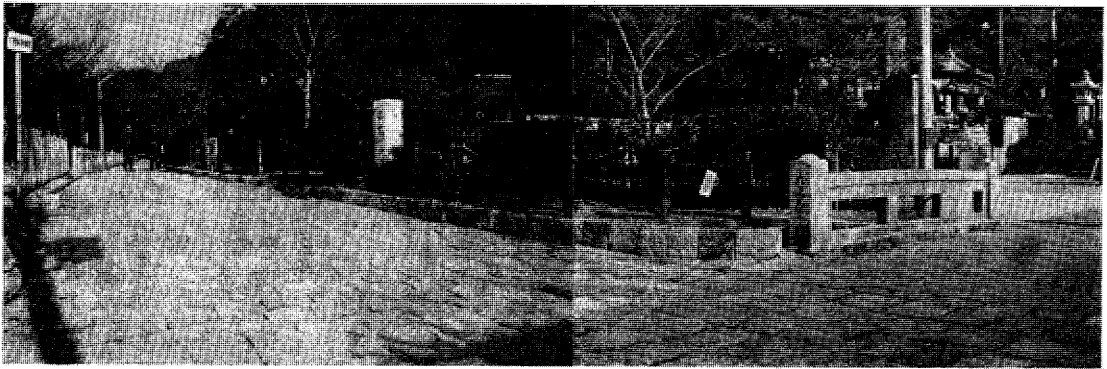
●大野川歩行者専用道路（大阪市）——46~54年度 大阪市計画街路事業 事業費13億6,500万円  
幅員31~53m 延長3,800m



●城北運河歩行者専用道路（大阪市）——47～50年度 大阪市都市計画街路事業 事業費 2億3,300万円  
幅員 7m 延長 5,400km

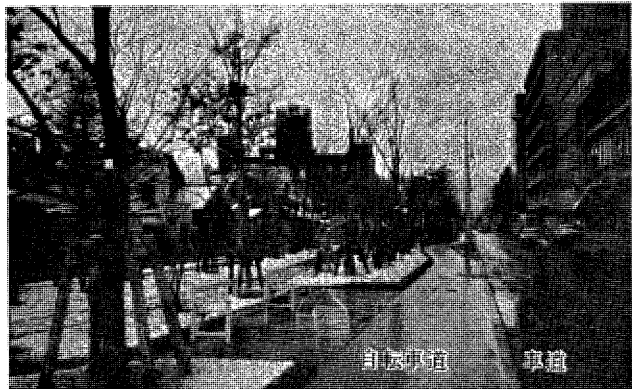
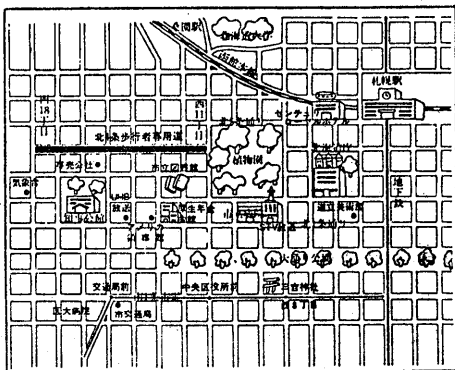


●白川疎水通りと哲学の道（京都市）——



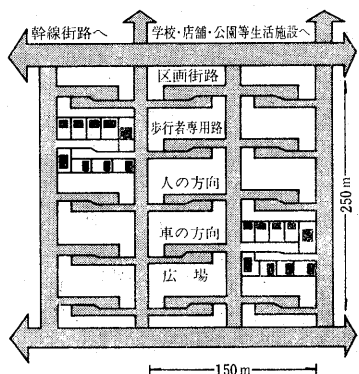
48～50年度 京都市都市計画街路事業  
事業費 7,800万円 幅員 2～11m 延長 1,530m

●北四条歩行者専用道路（札幌市）——49～50年度 札幌市都市計画街路事業 事業費 1億6,610万円  
幅員 14.27 延長 1km

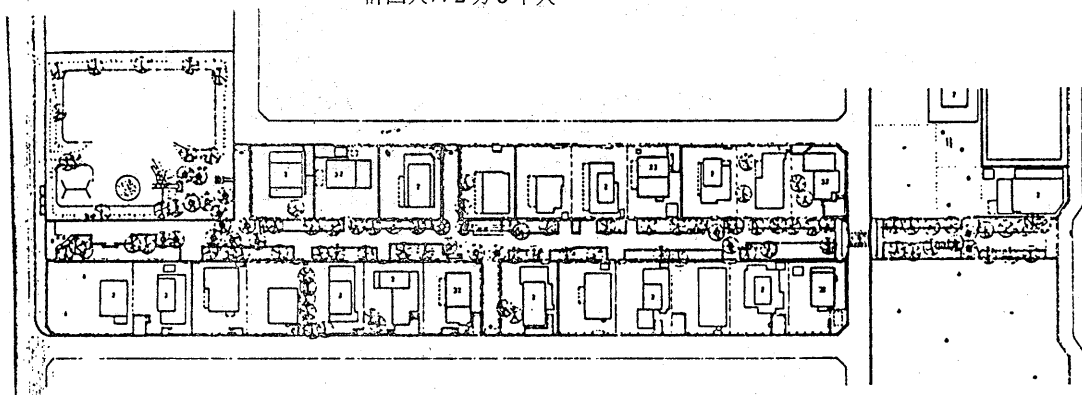


## 大規模なニュータウン造成等に伴う歩行者空間

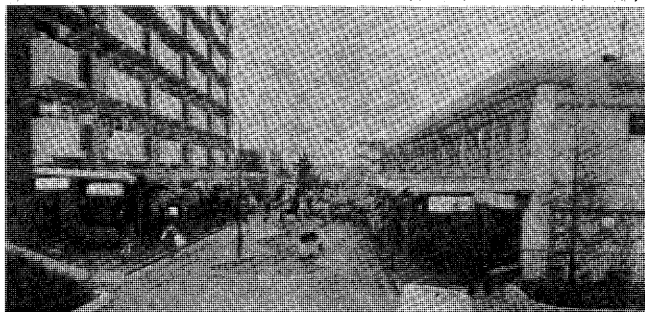
●神楽岡ニュータウン（旭川市）——44～49年度 旭川市新住宅市街開発事業 開発面積 94ha 計画人口 10,200人



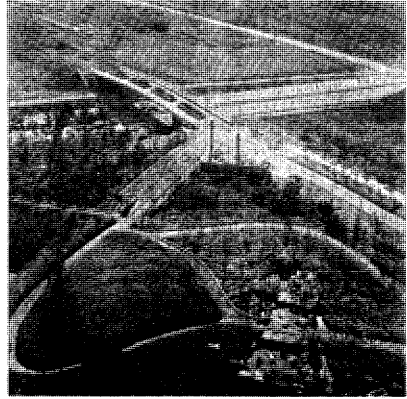
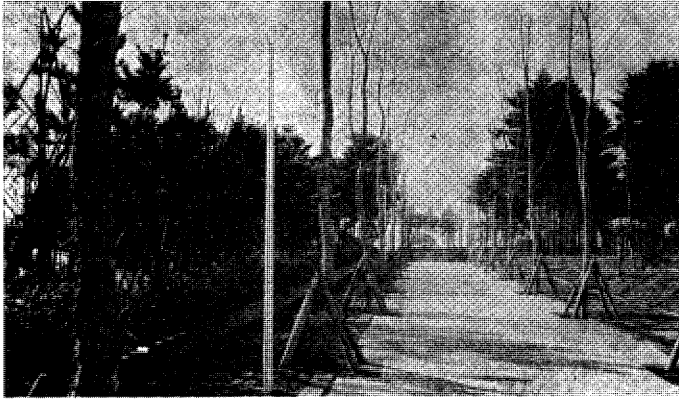
●東久留米 滝山団地（東京都）——41～44年度 住宅公団土地区画整理事業 開発面積 155.8ha 計画人口 2万5千人



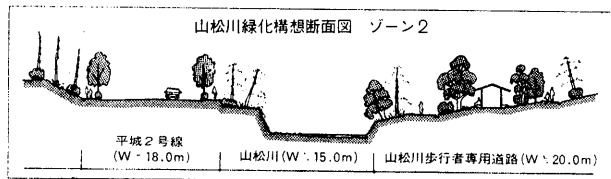
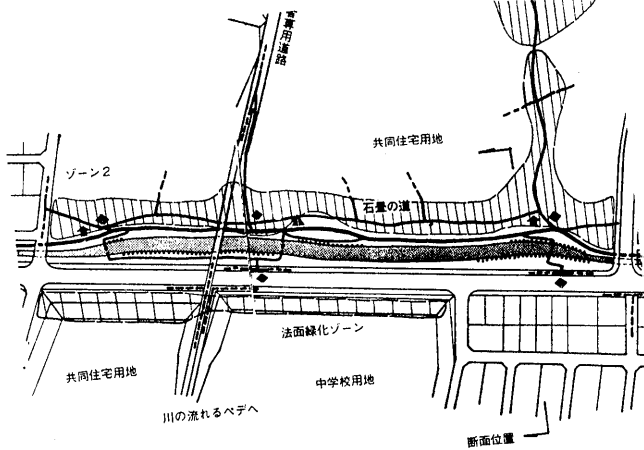
●多摩ニュータウン（東京都）——40年度～ 住宅公団等新住宅市街地開発事業 2,568ha 35万7千人



●**筑波研究学園都市（茨城県）**——41年度～住宅公団1団地の官公庁施設事業等+区画整理事業+新住宅市街地開発事業 開発面積 2,700ha 計画人口 6万人



●**平城ニュータウン（奈良県, 京都府）**——45年度～住宅公団区画整理事業 開発面積 612.9ha 計画人口 7万3千人



●**南港ポートタウン（大阪市）**——51～54年度 大阪市都市計画街路事業 事業費 8億9,300万円 幅員 4～24m 延長 1,400m









